



外部評価

3

eK4 外部評価委員

外部評価委員名簿

外部評価委員長	竹内 守善	地域振興アドバイザー
	三木 義久	四国経済連合会 専務理事
	森 孝明	放送大学愛媛学習センター所長
	神野 明	四国学院大学学長特別補佐
	野嶋 佐由美	高知県公立大学法人理事・高知県立大学副学長

平成 25 年度

eK4 外部評価委員会

外部評価委員会議事次第

日時 平成 25 年 3 月 7 日(金)11:00-12:00

場所 Polycom による遠隔会議

1.開会

- (1) 藤井会長挨拶
- (2) 竹内委員長挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 外部評価委員会規則説明

2.議題

- (1) 平成 25 年度の事業実施報告 (議題資料 1, 別添資料 1, 2, 3)
- (2) 平成 26 年度の事業計画について (議題資料 2, 別添資料 4)
- (3) 質疑応答及び意見交換
- (4) その他

3.閉会 深見副会長挨拶

配布資料

運営委員・外部評価委員名簿

議題資料 1. H25 年度 e-Knowledge コンソーシアム四国事業実施報告

議題資料 2. H26 年度 e-Knowledge コンソーシアム四国事業実施計画

別添資料 1. H22～H25 年度実施科目の大学別の履修人数

別添資料 2. H21 年度からのコンテンツ作成数と利用状況

別添資料 3. H25 年度 eK4 事業実施計画の達成状況

別添資料 4. H26 年度 eK4 事業実施計画の詳細検討

関係資料 eK4 News Letter14 号

外部評価委員会議事録

日 時:平成 26 年3月7日(金)11:00~12:00

場 所:Polycom を利用した遠隔会議

出席者:【司会】林敏浩 (香川大学)

外部評価委員:出席者	
竹内守善	地域振興アドバイザー 外部評価委員長
三木義久	四国経済連合会専務理事
神野明	四国学院大学学長特別補佐
野嶋佐由美	高知県立大学法人理事・高知県立大学副学長
陪席者	
藤井宏史	香川大学 運営委員 eK4 会長
深見公雄	高知大学 運営委員 eK4 副会長
金西計英	徳島大学 運営委員 代理
藤原伸彦	鳴門教育大学 運営委員 代理
松本長彦	愛媛大学 運営委員
中村昌宏	徳島文理大学 運営委員
妻鳥貴彦	高知工科大学 運営委員

他 陪席 24 名

1開会

- (1) 会長挨拶
- (2) 竹内委員長挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 外部評価委員会規則説明

2議題

- (1) 平成 25 年度の事業実施報告(議題資料1、別添資料1、2、3)
- (2) 平成 26 年度の事業計画について(議題資料2、別添資料4)
- (3) 質疑応答及び意見交換

3閉会 副会長挨拶

配布資料

- 外部評価委員名簿
- 外部評価委員会規則
- 議題資料1. H25 年度 e-Knowledge コンソーシアム四国事業報告

- 議題資料2. H26 年度 e-Knowledge コンソーシアム四国事業実施計画
別添資料1. H22、H23、H24、H25 年度実施科目の大学別の履修人数
別添資料2. H21 年度からのコンテンツ作成数と利用状況
別添資料3. H25 年度 eK4 事業実施計画の達成状況
別添資料4. H26 年度 eK4 事業実施計画の詳細検討
関係資料 eK4 News Letter14 号

1 開会

(1) 会長挨拶

年度末のお忙しい中、平成 25 年度 e-Knowledge コンソーシアム四国外部評価委員会にご出席頂きありがとうございます。昨年 10 月に有馬先生の後任として教育担当理事に就任し、eK4 の会長になりました、藤井と申します。よろしくお願いいたします。本日は、本年度の事業報告と来年度の事業実施計画をお諮りしたく存じます。補助金がきれて3年目となりましたが、厳しい予算状況にも関わらず、着実に実績を上げてこられましたのも、外部評価委員の皆様からのご意見が大きく寄与していると聞いています。本日もそれぞれのお立場から忌憚の無いご意見をいただきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

(2) 外部評価委員長挨拶

eK4 外部評価委員会の議題に入る前に挨拶させていただきます。eK4 事業の推進を進める上で、事務局始め、多くのご関係の方々が大変ご苦勞されていると思ひます。尊敬と感謝を申し上げたいと思ひます。

さて、「四国は一つ」と「四国は一つずつ」という言葉があります。eK4 の事業概要の中にも四国の大学には、『四国は一つ』という意識の共有を通じて「協調的・地域づくりに携わる人材」の育成が求められていますとあります。

以前にも話をさせていただきましたが、私は香川県庁の職員でした。36 年間勤めていた大半は、瀬戸大橋博覧会と四国の観光の事業に携わっていました。博覧会では、四国4県の共同パビリオンである四国館を担当しました。また観光では、四国 4 県の共同観光キャンペーンの事務局を十数年やりました。博覧会も、4県の共同観光キャンペーンも、キャッチフレーズが「四国は一つ」でした。私が担当した四国4県共同事業は、当時、四国大型キャンペーン推進協議会という観光誘致のための組織で、JR 四国さん、四国経済連合さんにご協力いただきました。平成5年に四国観光立県推進協議会という名前に改名され、私が退職した後、平成 21 年には四国ツーリズム創造機構として、現在も四国4県の連携事業として積極的な運営が図られています。

四国4県の連携を図ることは、非常に肝要なことで、何でも一緒にしたような制度で望んだ訳ではありません。その昔、日産サニーの広告で「隣の車が小さく見えます」という言葉が流行ったことがあります。何でも大きいものが良いという訳ではありません。平成の大合併においても、合併のメリットを生かしている地域はほとんどありません。合併した地域は合併できたことで安心してしまい、お互いが頼り合い責任をなすり合い、無責任で楽ができるという考えがあるのか、10 年経ちましたが合併メリットが未だ活かしていないことが非常に残念です。

私が在職していた当時学んだことは、「四国は一つ」とは、お互いに誠実で協調関係にあり協力し合うこと、サポートし合えることだと思ひます。しかも組織のそれぞれが個性的で積極的で意欲的であること、それが「四国は一つずつ」なのです。「四国は一つ」であり、かつ「四国は一つずつ」であるべきだと考えております。協調と競争のバランスがよくまとまっていることが、これからの地域のあり方であり、大学連携もそうあるべきだと考えております。

本日は皆様方にそれぞれ忌憚の無い意見を述べていただき、実りのある委員会になりますよう祈念し、簡単ではありますが、委員長挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(3) 外部評価委員紹介

外部評価委員の紹介があった。

(4) 外部評価委員会規則

林事務局長から外部評価委員会規則の説明があった。

2 議題

議題(1) 平成 25 年度の事業実施報告(議題資料1、別添資料1、2、3)

林事務局長から平成 25 年度 eK4 事業実施について報告があった。

外部評価委員から以下の意見があった。

【竹内委員】

コンテンツを作るのは非常に大変なことだと思うが、一方、先ほど挨拶でも述べたが、観光においては四国4県が共同で映像をたくさん作っている。こういった映像は、基本的に観光誘致のための映像であるが、大学で申し入れし、取扱可能な状態にして、これを活用しながらコンテンツを増やしていくこともポイントかなと思う。

先日、東かがわ市で開催された放送大学のシンポジウムでも紹介されたが、手袋産業に貢献してきた棚次辰吉さんの古い映像が発見されたので、それを松平公益会が経費を負担してデジタル化した。公共で使用するためにデジタル化したものなのでこういったものを素材としていろいろなものに使えると思う。デジタル化したものを共有して、大学の方で使っていただければ、いろんなものに活用できると思う。

また、先人の写真の資料が地域に多く散らばっているが、それが人から人へ渡っていくと入手が不可能になってくる。それらをデジタル化するために NPO の「さぬき映画倶楽部」というところで、そういった写真素材を集めてデジタル化して大学とか図書館とかに置くようにしようという話をしている。そういった事業と協力関係ができれば、これからの映像制作につながっていくという気がする。そういった外部の協力を得るのは中々難しいとは思いますが、予算に関係なく動くのも一つの手かなと思う。

各県も観光に対して非常にイメージを大事にしており、プロに依頼して中身のある映像素材をたくさん作っているので、そういったものを大学の授業で使えるかは事前に打ち合わせが必要だが、使うのも一つのポイントかなと思う。今年は瀬戸内海国立公園指定80周年ということなので、式典があったり、基調講演で宮本亜門さんが来られたりするので、そういったものを上手く利用して、学生が興味を持つものを作っていただきたいと思う。

【三木委員】

eK4 の狙いというのは、ある大学が作った授業を連携大学が共有できるということであると思う。それに照らし合わせると、25 年度の実績を見てみると、授業を作った大学の学生しか受講していない。これはどういう理由があるのか。WG で検討されているということだが、eK4 のシステムが悪いのか、あるいはそれ以外の理由があるのか。そのあたりを WG の経緯を教えてください。

→(香川大学 村井企画委員)

自大学の学生からの履修はあるが、他大学からの履修が無いということは、以前から言われていた問題である。学生としては、自分の大学の授業を受けていると、他の大学の知らない先生の授業をわざわざ受けたいと思わないという気持ちがあると思う。魅力的な科目が他大学で開講されているということをもっと学生に知ってもらうために、現在、広報活動の方法を WG で議論している。しかし、各大学の事情があるので、8大学共通した方法をとりづらい。そこでなんとかできるものから考えていこうということで、たとえば、宣伝用の YouTube チャンネルを作り、そこに広報用の動画をアップし、各大学がその動画のリンクを貼って広報していくことを検討している段階である。

→【三木委員】

他大学の学生の履修者数が毎年変わっていない。それを増やさないと、本来の目的通りになってないという感じがする。そのために、様々なインセンティブを学生に与える等を考えた方が良いと思う。

→(林事務局長)

今回の意見を参考に WG を継続して行きたいと思う。

【神野委員】

先ほど話に出たように YouTube 等が授業に使えれば、かなり受講しやすいと思う。ただ問題は単位認定だと思う。香川大学では eK4 の科目は単位認定されているのか。

→(林事務局長)

単位認定は、まず提供大学で単位を出していただき、自分の大学で読み替えて単位認定している。

→【神野委員】

提供大学にまず責任があるということか。

→(林事務局長)

はい、成績を評価する形です。

→【神野委員】

せっかくの良いコンテンツがあるので、それを積極的に学生に提供していくよう 2014 年度には進めてほしい。

【野嶋委員】

自校以外の学生が参加することの難しさは、システムとしての難しさ、また教授方法としての難しさがあると思う。例えば、このマス教育において学生がどの程度参加できているという感覚を、先生がどの程度持っているのかと思う。本学でも施行したときに、課題の出し方、参画のさせ方、自校以外の学生が参画しているという意識の持たせ方が課題だと思った。そういう面では、単位の問題やそれぞれの大学でシステムを安定させていくということ、それぞれの先生の教授方法を少し考えないと難しいだろうと思う。これは本学でも課題となっている。先生たちがどの程度意識して、他大学の学生に対して配慮できているか、どのようにして参画させるかを教育方法の中に持っているか等が鍵だと思うが、なかなか難しいだろうと感じた。しかし、毎年受講生が増えているということは、そういう面ではポジティブな側面もあるかなと思う。

またオープンコンテンツに関しては、作成したオンデマンド型コンテンツを是非出来るだけ早くオープンにしていきたいと思う。なかなか難しいとは思いますが、それぞれの大学で、他大学で履修した単位を認めるというのは一定の範囲があるので、オープンコンテンツで学び、単位が取得できればすごく良いなと思う。

またクラスとしてオープンコンテンツを作られているようだが、単発もので、例えば 90 分もののコンテンツも魅力があると思う。そうすれば、クラスの補完的なコンテンツにもなるし、他大学や市民の方にとってはクラスということではないが、非常に有用な知識の提供で魅力的だと感じた。

→(林事務局長)

学生がどういった気持ちで受講しているのか、よく e-Learning はマス教育ではなくて個別学習だとポジティブに言われるが、孤立した学習とも言えるので、そういったことも考慮していかなければならない。オープンコンテンツ化については、

MOOCやOCWがどんどん脚光を浴びてきている。そこらあたりの観点からも検討を進めていかなければならないと思う。いただいたご意見は企画委員会の中のWGで検討していきたいと思う。

【竹内委員】

e-Learningが全国的にどのようにとらえられているか、海外ではどうかということも、難しいかもしれないが調べてほしい。こういった比較の中で、四国では今後どう進めていくか見えてくることもあると思う。是非、そこらあたりの研究もしていただきたいと思う。

→(林事務局長)

そういったところも十分いろんな情報も仕入れながら、どのようにeK4の立ち位置をとるのか検討を進めていきたいと思う。

議題(2)平成26年度の事業計画について(議題資料2、別紙資料4)

林事務局長から平成26年度のeK4事業計画について説明があった。

外部評価委員から以下の意見があった。

【三木委員】

他大学の学生が広く履修できるようどのように進めていくか、今年度はWGで検討したということだが、この26年度の事業計画にはそのことが書かれていない。これは引き続き26年度もやるということか。

→(林事務局長)

はい。企画委員会の中のWGで引き続き検討をすすめることになっている。

【竹内委員】

前回もお話させていただいたが、なかなか予算が厳しいという中で始まった事業であるので、使える予算を外部からとってくることも検討してはどうか。

例えば、四国建設弘済会(現 四国クリエイト協会)で、公益事業費というものがある。この公益事業費は、今まで防災関係の方にシフトして充てられていた。四国建設弘済会は、地域づくり等に関して、四国4県を主体としてやっている部分がある。私はその公益事業の審査の方を行っているが、実際中身については、事務局と打ち合わせされると聞いた。『四国の知』に関連したお話であれば協力していただけるような要素もあると思う。

そういったことも念頭に入れて、資金的なものが得られるのであれば、頼むのも一つの手かなと感じた。元々地方整備局関係なので、土木関係が多いのだが、話を繋いでいくことに関してはやぶさかではない。何はともあれ、パンフレット一つ作るのにも資金が必要であるので、確かにHP上で公開すれば、費用がかからないが、学生に興味を示してもらうためには、いろんな媒体でeK4を広報していくべきだと思う。

【神野委員】

この事業実施計画はかなりすっきりしたなと感じた。あと、ただ企画委員会がだいぶ頑張らないといけないなと感じた。つまり事業報告シンポジウムも行い、共同研究シンポジウムも行う。この2つをかなり急いで進めなければならない。企画委員会の皆さんには、かなり頑張っていたきたい。

また事業実施計画の「⑤四国学を通じた四国の魅力を全国へ発信」については、とても重要なことだと思う。四国4県の中で全国的に知られているのは高知県だけで、一番知られていないのが香川県である。しかし四国には景観であったり、文化伝統であったり、食文化であったり、どの一面を切り出しても他の県と差別化できるようないろんな特質がある。

これは全国どの地域でも言えることだが、地域文化がお互いに発信し合って、交流をし合っている。いろんな各地の面白いもの、おいしいもの等はテレビのコンテンツになっている。こういったことはテレビだけに任せておく必要は無い。教育現場でもそういった要素を十分に取り入れられると思う。

これは、学生にとってはすごく大事なことで、学生は生まれ育ち、住んでいる地域のことをあまり知らない。だから、本学では新入生オリエンテーションの中で、まず自分達の住んでいる街をよく知るためにキャンパス内ツアーだけではなく、街ツアーも行っている。善通寺市という小さな街なので、歩いて市内を回れる。そこで面白いことを見つける。山も近いので山も登ってみると、滝を見つけたり、昔の兵士が行き来するための“工兵道”という道が残っていたりして面白い。香川県は全国一面積が小さい県であるが、十分に広いので、本学の学生には、まず善通寺市のこと、そして自分の住んでいる高松なら高松のこと、そして香川県全体のことを知ってもらいたい。

本学の「インタレスト」というフリーペーパーで、海から見た香川という特集をやり、沖合から少しずつずらして香川の西から東までの写真を撮った。それを繋ぎ合わせると二十数メートルの写真になった。こういったことができるのは香川県だけである。高知でやろうと思ったら、何倍もの長さになり、とんでもないプロジェクトになる。香川県がこじんまりしているから、そういったプロジェクトも成り立つ。

今回は海から見た風景だけだが、そこから上陸していったら何があるのかを探っていくても良い。つまり、湾岸のルートを作って、ルート沿いに香川県を西から東へ探っていく。これはまだやったことないが、やるとしたらものすごく調査するのが大変なことになると思う。本学の場合、「学生いなご軍団」という組織がある。人海戦術をやるにはかなり便利だが、ただアンケートを実施する場合、学生自身がアンケートする相手を探すときに地域に限られ、県内的に偏りができる。本当に県全体の意見を求めようとすれば、きちっとポイントを設定して調査しなければならない。どんなテーマでもよいが、一番取っ付きやすいテーマは「食」に関することだと思う。そういったことで新しいコンテンツで四国を全国に発信するということの意義は高く評価したい。

【野嶋委員】

事業計画について、洗練化されていて良いと感じた反面、地域に広がっていくということの広がり方が課題を抱えてしまったのかなと思う。洗練化することで良いことも出てくるが、代わりに、大学の中に内向きになりつつあることが気になった。それは、この状況の中で両方とすることは難しいことかと思うので、ひとつの課題だと思う。これを今後どのように発展させていくか、内向きに発展させることも非常に重要であると思うし、そちらにエネルギーを注ぐことも良いと思う。しかし、外部評価なので、外部から見たときに内向きになっていることが気になった。

→(林事務局長)

大変参考になった。検討を進めていきたい。

議題(3)質疑応答及び意見交換

【竹内委員】

資金の無い中で授業を行う苦労はよく分かるので、そういったことが大学の中でもっと理解を得られれば良いと思う。学生に期待感を持ってもらうこともアピールの活動として必要だと思う。

また外からの支援とか外との連携で得られるメリットもあるので、周辺部分で協力してくれる団体を見つけると良いと思う。香川県で言えば、例えば「まちテレ」というのがある。「まちテレ」は元香川大学工学部の学生が起業されて、映像を撮ってUstream等で流している。そういうところと連携して、映像等を大学で使えることになれば、経費の節減になると思う。学生にとっても興味のある素材になる。そこにいっぱい眠っているのもったいないと思う。

もう一つ香川県では、「eとびあ」という施設がある。今年度から施設が外部委託になるのだが、あと5年は施設がそのまま使える。eK4 と協力関係が築けるように、香川県で使える施設は使ってほしい。四国4県それぞれそういう所はあると思う。そういった連携を図ることで、経費のカバーを図ると同時に外への広がりになっていくと思う。

→(林事務局長)

「eとびあ」はいろいろなセミナーを開催するときに利用させてもらっている。そういった連携を今後とも増やしていきたいと思う。「まちテレ」に関して是非連携をしていきたいと思う。

【神野委員】

「eとびあ」は本学がある善通寺市から離れた場所にある。しかし、やはり裾野広く講座を提供していきたいとなれば、「eとびあ」を使わなければならない。今「知の拠点」という取り組みが進んでいるが、そこでも高松周辺を射程に入れて、いろんな大学独自のコンテンツを提供していく計画を進めている。

各大学から以下の意見があった。

【香川大学】(藤井先生)

先ほど三木委員からもご指摘のあった、科目を提供している大学の学生の受講はあるが、他大学の学生が受講しないという問題は eK4 の長年の課題である。これについて、学生がまず自分の大学の科目を優先するという村井先生からの説明もあったが、逆に授業を提供する担当教員の方も自分たちが教えている大学の学生を優先する気持ちがあると思う。各大学に修学の手引きが用意してあると思うが、その中で eK4 の科目がどういう形で扱われているのか調べてみても良いと思った。

もう一つ、四国の観光関連の事業が蓄積しているデジタルコンテンツを集めてみてはという意見をいただいた。そうすると別に 15 回分のコンテンツを揃えるのではなく、一つのみまとめたコンテンツとして eK4 で蓄積し、例えば、先生が、その中のこの部分を使わせてほしいと言ったときに利用していただければ、e-Learning に抵抗を持っている先生が、自分の授業でも実際役に立つと考えてくれるかもしれないと思った。

【高知大学】(深見先生)

本日の外部評価委員会のご意見を聞かせていただいて、気づかされた点がいくつもあった。そのうちの 하나가野嶋先生の意見と少し関係すると思うが、そもそも四国学というのはいろんな大学の先生にオムニバスの授業でやっていただいている。しかし、関連するコンテンツを 15 回分集めて1つの授業にすると中々大変である。1 回分(90 分)だけの授業を集めて、学生が何をとっても良いので、15 回分のコンテンツを視聴すると単位にするという授業を作っても良いかなと思った。いろいろな授業を聞くことで、本当の意味での学際的な授業を作ってみたら面白いと思った。

【徳島文理大学】(中村先生)

委員の皆様方からは示唆に富んだ興味深いお話をありがとうございました。いくつか感じたことだが、90 分の授業を1コマずつというのはユニークで面白いと思った。さらに四国以外から見た四国という視点も必要だと感じた。大学教員以外のそれぞれの分野で四国について造詣が深い方を講師に招くことはできないのかと感じた。

3 閉会

副会長挨拶

本日は外部評価委員の皆様から非常に貴重な意見を頂きありがとうございました。いろんな意見を聞かせていただいて、冒頭に竹内委員長からお話があった「四国は一つ」かつ「四国は一つずつ」という言葉が非常に印象的でした。まとまることと、個性を示しながら各県が行っていくこと、これは地域だけではなく研究教育分野においても言えることだと思います。貴重な意見をいただき、eK4 事業が進んでいくことを改めて意識をさせていただきました。本日は本当にありがとうございました。

